

指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票(評価対象年度:令和2年度)

施設 の 名 称	宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター
指 定 管 理 者 の 名 称	(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
施 設 所 管 部 課 (室)	環境生活部 自然保護課

1. 当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

期 間	管理形態	指定管理者(管理受託者)の名称	摘 要
平成21年 4月 ~ 平成26年 3月	指定管理	(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団	
平成26年 4月 ~ 平成31年 3月	指定管理	(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団	
平成31年 4月 ~ 令和 6年 3月	指定管理	(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団	

(注)管理形態欄には、直営・管理委託・指定管理者の別を記入してください。

2. 現指定管理者の概要【施設所管課記入】

指 定 管 理 者 の 名 称	名 称	公益財団法人宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
	所在地	栗原市若柳字上畑岡敷味17番地の2
指 定 期 間	平成31年 4月 1日 ~ 令和 6年 3月31日 (5か年)	
募 集 方 法	<input type="checkbox"/> 公募 <input checked="" type="checkbox"/> 非公募	

3. 施設の概要【施設所管課記入】

施 設 の 名 称	宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター	
所 在 地	栗原市若柳字上畑岡敷味17番地の2	
設 置 年 月	平成 3年 1月	
根 拠 条 例 等	サンクチュアリセンター条例	
設 置 目 的	伊豆沼・内沼を調査・研究し保全対策を確立するとともに、人間と野生動植物とが共存する優れた自然環境としてのサンクチュアリ(聖域)を創造し、併せて県民の自然保護思想の高揚と自然と調和した活力ある地域づくり等を推進するため設置されました。	
施 設 の 内 容	敷 地 面 積	3,850 m ²
	構 造	鉄筋コンクリート造り 2階建て
	内 容	1階 829.87m ² (事務室、資料室、実験室、研修室、ボランティアルーム) 2階 563.62m ² (会議室、展示室、軽食喫茶室、観察展望室)
開 館 (所) 日	◇ 月曜日(休日を除く)を除く日 ◇ 休日の翌日(日曜日, 土曜日, 1月2日を除く。)を除く日 ◇ 12月29日から12月31日を除く日	
開 館 (所) 時 間	午前9時00分 ~ 午後4時30分	
指 定 管 理 者 が 行 う 業 務 の 範 囲	1 宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター ①建物等の管理 ②物品の使用及び管理 ③施設の共用等について ④入館の拒否等 ⑤損傷等の届け出 ⑥展示物等の管理、保全及び維持管理 ⑦事故防止と発生時の処理 ⑧再委託業務について ⑨施設の管理運営に関する環境配慮について ⑩事業報告 2 伊豆沼・内沼周辺地域維持管理及び整備業務 ①水生植物園の維持管理及び整備 ②買上地(県有地)の維持管理及び整備 ③ハス田の維持管理 ④観察路の維持管理及び整備	
利 用 料 金 制	採 用 の 有 無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
	利用料金の名称	

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 開館(所)日数及び利用者数

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和2年度) (A)	前 年 度 (令和元年度) (B)	評価対象年度 (令和2年度) (C)		
開館(所)日数	300 日	307 日	259 日	86.3%	84.4%
延べ利用者数	30,000 人	31,808 人	24,932 人	83.1%	78.4%

(注)対象施設が複数ある場合は、施設ごとに記入してください。

(2) 延べ利用者数の内訳

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和2年度) (A)	前 年 度 (令和元年度) (B)	評価対象年度 (令和2年度) (C)		
	30,000 人	31,808 人	24,932 人	83.1%	78.4%
	人	人	人		
	人	人	人		
	人	人	人		
	人	人	人		
合 計	30,000 人	31,808 人	24,932 人	83.1%	78.4%

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入

(単位:千円, %)

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和2年度) (A)	前 年 度 (令和元年度) (B)	評価対象年度 (令和2年度) (C)		
県指定管理料	30,539	30,261	30,539	100.0%	100.9%
利用料金収入					
その他					
収入計 (a)	30,539	30,261	30,539	100.0%	100.9%

(2) 支出

人件費	19,656	18,892	19,504	99.2%	103.2%
施設管理費	10,883	11,181	10,718	98.5%	95.9%
事業運営費		0			
その他		188	317	#DIV/0!	168.6%
支出計 (b)	30,539	30,261	30,539	100.0%	100.9%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	0	0	0		
前期繰越収支差額					
次期繰越収支差額					

※ 自主事業を実施している場合は、上記に準じて、自主事業の収支実績を別掲すること。

6. 評価対象年度(令和2年度)の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

項目	事業実績 【指定管理者記入】		指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】		
				評価		評価	
①管理運営体制	指定管理者として、「管理運営業務仕様書」に基づき、施設の有効活用を図るとともに、破損箇所等の早期発見と保守に努め、経費節減等も図りながら、適切に保全・管理した。		運営に関しては、少ない人数で総合的施策の推進と教育的効果の向上を図りながら、施設備品の適切な管理と利用入館者への接客サービスに意を用い、自然保護・動物愛護思想普及に相乗的効果があがるよう運営管理を行った。		A	施設管理及び各種事業等に職員が鋭意取り組んでおり、適正な管理運営がなされている。	A
人員体制	正規	4人	非正規	5人			
②施設・設備の維持管理業務の実施	1 日常的に施設並びに設備関係、展示品の見回り点検を行い、破損箇所や不具合の早期発見に努めた。 2 施設管理に関する法令を遵守し、清掃業務・消防設備保守点検・空調設備保守点検・重油タンク清掃業務・貯水槽清掃業務・エレベーター保守点検・機械警備業務については、指名競争入札により委託業者を選定し、適切な管理の下、経費節減に努めた。		法令を遵守し定められた点検・検査を行うとともに、職員が常時、建物内及び敷地内を巡回し、盗難、汚損及びゴミの不法投棄等の防止を行った。		A	法令に従い管理施設の保守点検がなされている。また、管内の展示物や設備機器についても適正に管理されており、管内の清掃も行き届いている。	A
③運営業務(ソフト事業等)の実施	別記1のとおり		各研究員が研究内容をシンポジウム及び学会で発表している事により、沼の保全対策は、全国から注目を浴びている。		S	各研究員が、伊豆沼、内沼に生息・生育する鳥類、魚類、水生植物等に関する研究を鋭意行っており、学会等においてその成果を発表するなど積極的に情報発信をしている。特にこうした研究成果を基とした沼の保全対策は全国からも高い評価を受けている。	S
④自主事業の実施	別記2のとおり		自主事業は、コロナ禍においても参加者から好評で、リピーターが多く参加している。		S	伊豆沼・内沼の自然フォトコンテストは、30回と回を重ね、伊豆沼・内沼の自然の素晴らしさと、自然保護の重要性を広く伝えてきている。また、様々な自然体験講座を開催し、自然保護思想の普及に努めている。	S
⑤利用者サービスの向上	厳しい予算の中、入館者のニーズに応えるべく、サンクチュアリセンターのパンフレットを独自で作成し配布を行い好評を得ました。また、情報の発信は、ホームページを常に更新し、伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターニュースを毎月発行し活用、さらにはマスコミなどを通じ、水鳥やブラックバス等の情報をはじめ調査研究などを積極的に情報発信に努めた。 研修室は、管理運営に支障のない限り伊豆沼・内沼関連の各種会合等に開放し、有効活用を図った。		地元はもとより県内、県外からの多くの方々が来館する。少ない人数で沼の保全対策からサンクチュアリセンターの運営までを行う当財団の役割は大変高く評価されている。		A	インターネットのホームページを活用し、情報が提供されている。また、独自でセンターニュースを毎月発行しているほか、観光客の利便に供するため、観光地図等を取りそろえ提供するなど来客者のニーズに的確に対応している。	A
⑥利用者の苦情、要望等の把握とその反映	館内に設置する「ご意見カード」の意見の内容を分析し、誠実に対応した。接遇にも十分留意しながら対応し、トラブルの未然防止に努めた。施設利用者の利便性と入館者増加に向け、館内展示物の配置に工夫するなど、観葉植物、花鉢を設置し、うるおいのある空間づくりに努めた。		来館者からの意見を参考に、展示物に予算をかけられないため、職員が展示物やパネル等を作成し館内展示を行っている。		A	来館者の意見を大切にし、伊豆沼・内沼の自然の紹介や、研究成果を分かりやすく展示するなど運営に活かしている。	A
⑦安全対策	毎年9月に築館消防署において、職員全員で心肺蘇生の講習会を行い、来館者に対して速やかに対応できるよう訓練を行った。消防法で、定められている防火管理者等の有資格者を配置して、火災予防について万全な管理に努めた。		消防設備等の点検において不具合等があった場合すぐに修繕を行っている。常に危機的意識を持ち、大きな災害に備えている。		A	消防設備の点検等の安全管理について適正に行われている。また、緊急時の連絡体制も整っている。	A
⑧県民の平等利用	センターの利用及び各種自主事業への参加については、県内、県外を問わず公平平等とし、誰にでも気軽に利用できる様にした。また、調査・研究の成果については、一般にも広く公表し、その成果を社会に還元した。		事業のPR及び調査研究の成果は、県サンクチュアリセンターが展示施設だけではなく、伊豆沼・内沼の環境保全対策及び調査研究機関である事を広く県内外に浸透しつつある。		A	各種の自主事業を広く周知し、県内はもとより、県外からも参加を得ている。また、調査・研究成果は、学会や誌面を通じ広く公表され、その成果は、高い評価を得ている。	A

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
			評価		評価
⑨個人情報の保護	1. 情報公開については、県の情報公開条例は勿論のこと、財団情報公開規程により、適切に対応することになっている。 2. 個人情報保護については、県の個人情報保護条例を遵守し、「伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト」や「自然体験講座」、その他センターで得られた個人情報は、個人の権利利益の侵害の防止を図るため、慎重かつ適正に取り扱った。	令和2年度の情報公開の要請はなし。	A	実施事業で得られた個人情報は、適正に取り扱われている。	A
⑩利用実績	上記「4. 施設利用実績」のとおり	上半期の入館者は、新型コロナウイルスによる外出自粛と7月の長雨により、ハスの花が少なかったことが大きく影響し、上半期全体では昨年度より6,893人の減となった。また、下半期は、入館者数が増えたものの、1月の大雪の影響で入館者数が伸びず、全体では、6,876人の減となり、昨年度入館者数の78%となった。	A	コロナ禍によって入館者が昨年度と比較して6,876人減少しているものの、開館日数259日、1日の平均入館者数96人は、栗原市という立地条件からしても、評価が高い。	A
⑪収支実績	上記「5. 施設利用実績」のとおり	経費削減を実施し、粗餐の範囲内での執行を行った。	A	限られた予算の中で、各事業が適正に執行されている。また、協賛企業からの支援を有効に活用し事業に取り組んでいる。	A
⑫その他の取組	絵画展の開催、民間企業が沼周辺で行うボランティア活動に協力を行い、自然保護思想の普及活動にも力を入れた。また、学校や各種団体から依頼された講師派遣・自然観察会や出前講座などの実施に積極的に対応した。	地域に密着した事業を展開するため、事業以外の取り組みも、重要視される。コロナ過ではあるが、環境への関心は高く、金成中学校より伊豆沼・内沼出前講座の依頼があり、環境をテーマとした講話を行っている。今後も地元との連携を密にし、事業を推進したい。	A	コロナ禍により他団体との連携が難しい状況にあったが、出来得る範囲で積極的に取組が進められている。	A
総合評価		調査・研究及び沼の保全の核となるサンクチュアリセンターの経費の削減等を行い、管理に努めている。伊豆沼・内沼の環境保全対策は、多くの県民から高い評価を得ている。	A	県の環境保全の代表的な実践地として、沼の生態系保全等に関する研究成果を広く社会に還元している。また、環境教育施設としての役割も十分果たしている。	A

【指定管理者が行う自己評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。

【県が行う評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

項目	指定管理者 【指定管理者記入】	県 【施設所管課記入】
管理運営の課題等	コロナ過において、入館者は減少したものの、来館者から高い評価をいただいている。今後は、施設老朽化箇所について、自然保護課と協議を行いながら、施設の整備を行っていく。	老朽化する施設・設備について、緊急性を踏まえ、優先順位を定めて計画的に修繕を行っていく。

別記1 【③運營業務(ソフト事業等)の実施】

研 究 業 績

○原著論文 (査読付学術雑誌)

第一著者

1. Shimada, T., Kasahara S., Kurechi, M., Suzuki, Y. & Higuchi, H. 2020. Frequency of kleptoparasitism by Black Brant *Branta bernicla nigricans* on Eurasian Coot *Fulica atra* differs between years and habitats. *Wildfowl* 70: 94-106.
2. 嶋田哲郎. 2020. 伊豆沼・内沼のガンカモ類. 伊豆沼・内沼研究報告 14: 1-14.
3. 嶋田哲郎・狩野博美・細井俊宏. 2020. 日本におけるアオガン *Branta ruficollis* の初記録. 日本鳥学会誌 69: 245-248.
4. 藤本泰文・嶋田哲郎・井上公人・高橋佑亮・速水裕樹. 2020. 2016/17年の低水位時に生じたオオハクチョウの採食活動によるハス群落の減少とその後の溶存酸素濃度の上昇. 保全生態学研究 25: 99-108.
5. Fujimoto Y, Yambe H. Takahashi K. Sato S. 2020. Bile from reproductively mature male largemouth bass *Micropterus salmoides* attracts conspecific females and offers a practical application to control populations. *Management of Biological Invasions* 11: 415-427.
6. 速水裕樹・藤本泰文. 2020. 江合川水系におけるゼニタナゴ *Acheilognathus typus* の確認. 伊豆沼・内沼研究報告 14: 63-67.
7. 麻山賢人・藤本泰文・斉藤憲治. 2020. オオクチバス駆除後に自発的に再生したタナゴ *Acheilognathus melanogaster* の生息地 伊豆沼・内沼研究報告 14: 81-86

○共著論文

1. L.Fang, J.Zhang, Q.Zhao, D.Solovyeva, D.Vangeluwe, S.B.Rozenfeld, T.Lameris, Z. Xu, I.Bysykatova-Harmey, N.Batbayar, K.Konishi, O.-K.Moon, B.He, K.Koyama, S. Moriguchi, T.Shimada, J.-Y.Park, H.Kim, G.Liu, B.Hu, D.Gao, L.Ruan, T.Natsagdorj, B.Davaasuren, A.Antonov, A.Mylnikova, A.Stepanov, G.Kirtaev, D.Zamyatin, S. Kazantzidis, T.Sekijima, I.Damba, H.Lee, B.Zhang, Y.Xie, E.C.Rees, L.Cao & A.D.Fox. 2020. Two distinctive flyways with different population trends of Bewick's Swan *Cygnus columbianus bewickii* in East Asia. *Wildfowl special issue* 6: 13-42.
2. P.Ao, X.Wang, F.Meng, N.Batbayar, S.Moriguchi, T.Shimada, K.Koyama, J.Park, H.Kim, M.Ma, Y.Sun, J.Wu, Y.Zhao, W.Wang, L.Zhang, X.Wang, T.Natsagdorj, B.Davaasuren, I.Damba, E.C.Rees, L.Cao & A.D.Fox. 2020. Migration routes and conservation status of the Whooper Swan *Cygnus cygnus* in East Asia. *Wildfowl special issue* 6: 43-72.
3. C.Li, Q.Zhao, D.solovyeva, T.Lameris, N.Batbayar, I.Bysykatova-Harmey, H.Lee, V.Emelyanov, S.B.Rozenfeld, J.Park, T.Shimada, K.Koyama, S.Moriguchi, J.Hou, T.Natsagdorj, H.Kim, B.Davaasuren, I.Damba, G.Liu, B.Hu, W.Xu, D.Gao, O.Gorosko, A.Antonov, O.Prokopenko, O.Tsend, A.Stepanov, A.Savchenko, G.Danilov, N.Germogenov, J.Zhang, X.Deng, L.Cao & A.D.Fox. 2020. Population trends and migration routes of the East Asian Bean Goose *Anser fabalis middendorffi* and *A.f.serrirostris*. *Wildfowl special issue* 6: 124-156.

4. X.Deng, Q.Zhao, D.Solovyeva, H.Lee, I.Bysykatova-Harmey, Z.Xu, K.Ushiyama, T.Shimada, K.Koyama, J.Park, H.Kim, G.Liu, W.Xu, B.Hu, D.Gao, Y.Zhang, B.He, T.Natsagdorj, B.Davaasuren, S.Moriguchi, D.Barykina, A.Antonov, A.Stepanov, J.Zhang, L.Cao & A.D.Fox. 2020. Contrasting trends in two East Asian populations of the Greater White-fronted Goose *Anser albifrons*. Wildfowl special issue 6: 181-205.
5. P.Ao, X.Wang, D.solovyeva, F.Meng, T.Ikeuchi, T.Shimada, J.Park, D.Gao, G.Liu, B.Hu, T.Natsagdorj, B.Zheng, S.Vartanyan, B.Davaasuren, J.Zhang, L.Cao & A.D.Fox. 2020. Rapid decline of the geographically restricted and globally threatened Eastern Palearctic Lesser White-fronted Goose *Anser erythropus*. Wildfowl special issue 6: 206-243.
6. Y.Sawa, C.Tamura, T.Ikeuchi, K.Fujii, A.Ishioroshi, T.Shimada, S.Tatsuzawa, X.Deng, L.Cao, H.Kim & D.Ward. 2020. Migration routes and population status of the Brent Goose *Branta bernicla nigricans* wintering in East Asia. Wildfowl special issue 6: 244-266.
7. 牛山克巳・高橋佑亮・嶋田哲郎・鈴木 透・山田浩之. 2020. 「デジアナカウンター」の製作とマガンの個体数調査への使用例. 湿地研究 10: 79-83.
8. Yasuno N, Fujimoto Y, Shimada T, Shikano S, Kikuchi E . 2020. Unbalanced population structure and reliance on intraspecific predation for largemouth bass in an agricultural pond with no available prey fish. Journal of Freshwater Ecology 35: 523-534.

○一般普及書

1. 嶋田哲郎. 2020. 冬越し中のカモは夜に何してる？バーダー 34: 36-37.

○委員会委員・非常勤講師など

(嶋田研究室長)

1. 希少野生動植物保存推進員 (環境省)
2. 重要生態系監視地域モニタリング推進事業 (ガンカモ類調査) 検討委員 (環境省)
3. 宮城県生物多様性地域戦略検討委員 (宮城県)
4. 伊豆沼・内沼自然再生協議会委員 (宮城県)
5. 栗原市環境審議会副会長 (栗原市)
6. 栗駒山麓ジオパーク保護・保全部会長 (栗原市)
7. 登米市環境審議会委員 (登米市)
8. 登米市生物多様性とめ戦略検討委員会副会長 (登米市)
9. 日本鳥学会評議員、企画委員、2020年度大会実行委員長(日本鳥学会)
(藤本主任研究員)
1. 希少野生動植物保存推進員(環境省)
2. 宮城県希少野生動植物保護対策検討会委員 (宮城県)
3. 宮城県自然環境保全審議会専門委員 (宮城県)
4. 栗駒山麓ジオパーク推進協議会防災・教育部会委員 (栗原市)
5. 遠野市山口集落伝統文化的景観保存調査委員 (遠野市)
6. 旧品井沼ため池群自然再生推進委員 (環境省)
7. 日本魚類学会自然保護委員 (日本魚類学会)
8. 流域環境保全ネットワーク副理事

別記2【④自主事業の実施】

① 自然体験講座の開催

自然保護思想の普及啓発活動の一環として、季節ごとのテーマを設定し、例年10回程度、自然体験講座を開催しているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染予防対策のため、年5回の開催となった。

◇令和2年度伊豆沼・内沼自然体験講座

回数	テーマ	開催日	参加者数
第1回	伊豆沼漁師体験	10月4日	23名
第2回	ガンの飛び立ち観察会& ラムサール湿地見学ツアー	11月8日	21名
第3回	ガンの飛び立ち観察会& ラムサール湿地見学ツアー	11月21日	23名
第4回	ガンの飛び立ち観察会& 沼歩き探鳥会	12月13日	21名
第5回	ガンの飛び立ち観察会& 沼歩き探鳥会	1月9日	13名
	合計		101名

※ 予算内訳 収入 財団 計 28万円
 支出 保険料、委託費 計 28万円
 (経費が少ない理由は、財団職員が講師を行っているため。)

② 第30回伊豆沼・内沼の自然フォトコンテストの開催

栗原・登米両市との共催事業となっており、写真展開催により伊豆沼・内沼の重要性和環境保全の大切さのアピールを行った。また、2月、3月に県サンクチュアリセンターで全作品の展示を行った。(出品者91名、内入選者20名)

なお、表彰式は新型コロナウイルス感染症拡大予防の為、中止となった。

<第29回写真展巡回展示箇所(入選作品のみ)>

登米市伊豆沼内沼サンクチュアリセンター	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
登米市市役所1階ロビー	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
栗原市市役所1階ロビー	令和2年7月1日～7月30日
JRくりこま高原駅オアシスセンター	令和2年8月1日～8月30日
宮城県庁2階ロビー	令和2年12月7日～12月18日

※ 予算内訳 収入 栗原市40万 登米市30万 財団40万 計 110万円
 支出 旅費、通信、消耗品、印刷費、諸謝金(賞金等) 計 110万円

③ 伊豆沼・内沼クリーンキャンペーンの実施

登米・栗原両市と共催で春分の日第61回伊豆沼・内沼クリーンキャンペーンを開催する予定であったが、宮城県の緊急事態宣言にともなう新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、2年連続中止となった。

<クリーンキャンペーン実行委員会メンバー>

栗原市若柳自然保護協会、伊豆沼漁業協同組合、内沼観光物産協議会、
 迫川上流土地改良区、伊豆沼土地改良区、穴山土地改良区、新田北部土地改良区、
 宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会、財団

※ 予算内訳 収入 財団 計 2万円
 支出 印刷 計 2万円

④ バス・バスターズの活動(ブラックバス駆除ボランティア)

春のオオクチバス繁殖時期に合わせて行われるボランティア活動だが、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、中止となった。

⑤ 調査研究・普及啓発事業

伊豆沼・内沼の自然環境の保全管理のため、東北大学などの各種研究機関やシナイモツゴ郷の会をはじめ、各種団体との連携を密にし、調査研究並びに保全活動を行った。

また、伊豆沼・内沼研究報告14巻に11本の論文を掲載したほか、センターニュースやホームページを活用し情報の発信に努めた。入館者に対しては、新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、予防対策を徹底しつつ、展示品を活用した恒常的な解説に努めるとともに、出前講座をはじめ学校・各種団体等からの講演・講話要請等についても積極的に受入れし対応した。

さらに、下半期にマガンの飛び立ち観察などをテーマとした5回の伊豆沼・内沼自然体験講座を開催した。

1 調査・検討会への参加状況

年	月	日	団 体 名	
令和2年	4月	8日	ガン類渡りヒアリング	
		4月10日	ハス刈り打合せ	
		4月28日	栗駒山麓ジオパーク研究助成審査会（栗原市）	
		5月20日	自然再生事業打合せ（県庁）	
		6月	4日	自然保護課打合せ
		6月	9日	上畑岡地区環境配慮検討委員会
		6月12日	ゼニタナゴ調査（～13日、25日）	
		6月16日	横山先生（山形大）調査・打合せ	
		6月26日	栗駒山麓ジオパーク推進協議会保護保全部会（栗原市）	
		6月26日	環境省打合せ	
		7月	2日	栗駒山麓ジオパーク推進協議会防災教育部会（栗原市）
		7月	2日	風力発電ヒアリング
		7月	8日	環境省打合せ
		7月22日	栗駒山麓ジオパーク推進協議会打合せ	
		7月30日	環境省打合せ	
		8月18日	栗原市環境審議会（栗原市）	
		8月27日	海津先生（東大）調査（～29日）	
		9月15日	山田先生（北大）調査（～19日）	
		9月16日	モニタリング1000調査（～18日）	
		9月24日	豊田合成打合せ	
		9月30日	斉藤氏（東北水研）ため池調査（栗原市）	
		10月15日	伊豆沼・内沼自然再生事業学識経験者意見交換会	
		10月21日	南三陸ビジターセンター打合せ	
		10月27日	豊田合成打合せ	
		10月29日	水野先生（東大）調査（～31日）	
		11月	7日	シナイモツゴ郷の会会議（オンライン）
		11月11日	栗駒山麓ジオパーク保護・保全部会（栗原市）	
		12月	2日	沈水植物部会
		12月	4日	アメリカザリガニ防除会議（千葉県）
		12月23日	栗駒山麓ジオパーク専門部会代表者合同会議（栗原市）	
令和3年	1月	22日	モニタリング推進事業（ガンカモ類調査）検討会	

1月29日	自然再生専門家会議（オンライン）
2月 2日	東アジア・オーストラリア地域フライウェイモニタリング 検討準備会（～3日）
2月 3日	栗駒山麓ジオパーク推進協議会防災・教育部会（栗原市）
2月 5日	栗駒山麓ジオパーク推進協議会保護・保全部会（栗原市）
2月 5日	環境DNA検討会
2月 9日	トヨタ東日本打合せ
3月 4日	アメリカザリガニ防除WG会議
3月10日	栗駒山麓ジオパーク推進協議会保護・保全部会（栗原市）
3月11日	日韓渡り鳥会議（オンライン）
3月17日	東日本トヨタ打合せ
3月18日	栗駒山麓ジオパーク専門部会代表者合同会議（栗原市）
3月19日	大崎市ラムサール条約湿地保全活用委員会
3月26日	栗駒山麓ジオパーク推進協議会防災・教育部会（栗原市）

2 調査研究援助

(1)鳥インフルエンザ対策（環境省東北地方環境事務所）

3 出前講座の開催状況

開催日	団体名	テーマ	参加者数
7月30日	栗原市立金成中学校	伊豆沼の環境についての講話	50名

※ 予算内訳 収入 財団 計 150万円
支出 計 150万円

☆ 自主事業収支

（単位：千円）

自主事業区分	収入	支出	収支
自然体験講座	280	280	0
フォトコンテスト	1,100	1,100	0
クリーンキャンペーン	20	20	0
調査研究・普及啓発	1,500	1,500	0
合計	2,900	2,900	0